

富山市定例市長記者会見（令和4年11月1日）

■冒頭

市長

皆さん、こんにちは。お忙しい中、定例記者会見にお集まりいただき、ありがとうございます。それでは早速始めさせていただきます。

■令和5年度予算編成方針について

市長

令和5年度予算編成方針を策定しましたので、本日はその概要について、お手元の資料「令和5年度予算編成方針」をご覧くださいながらご説明いたします。

1 ページをご覧ください。

中段の「国の予算編成の動向」ですが、国の概算要求は、金額を未定とする事項要求も多く、来年4月のこども家庭庁創設に伴う新たな少子化対策、こども政策に係る経費については予算編成過程で検討することや、先月策定された総合経済対策、これを受けて今国会に補正予算を提出される予定など、国の動向を注視しながら予算編成を進めていく必要があると考えております。

2 ページをご覧ください。

次に、「富山市の財政状況」についてですが、令和5年度の財政見通しは、まず、歳入のうち、市民税は、給与所得の増加や企業収益の改善などにより、また、固定資産税は、家屋の新增築件数が堅調に推移していることなどにより増収が見込まれ、市税全体としては、本年度の当初予算を上回るものと見込んでおります。

一方、地方交付税につきましては、市税の増収により減収を見込んでいることなどから、市税・地方交付税等を合わせた一般財源総額については、大きな伸びは期待できません。

また、歳出については、公債費が高水準で推移することや、扶助費や繰出金については増加が見込まれます。

これらに加え、第2次総合計画後期基本計画をはじめとした、各種計画に位置付けた事業の着実な進捗を図ること、具体的には、道路、橋りょうなどの社会資本や公共施設の長寿命化対策、「スマートシティ」や「ゼロカーボンシティ」の推進などに取り組む必要があること、また、来年のG7教育大臣会合の開催や、再来年には北陸新幹線の敦賀までの開業を控え、本市の魅力を一層高める必要があるなど、大きな財政需要が見込まれ、令和5年度も極めて厳しい財政状況になるものと予想しております。

3 ページをご覧ください。

次に、「令和5年度予算編成の基本的考え方」について申し上げます。まず、財政の健全性を堅持するため、市税等の一般財源の確保に努めるとともに、聖域なき歳出の抑制を図り、見込み得る一般財源の範囲内で、予算の重点的、効率的な配分に努めること、また、市債の発行については、できる限り抑制することとしております。

次に、事務事業のゼロベースでの見直しとして、聖域なき歳出の抑制を図るためには、スクラップ・アンド・ビルドや、毎年取り組んでおります事務事業評価など、あらゆる視点からの徹底した見直しを行うことを基本として取り組んでまいります。

4 ページをご覧ください。

次に、予算の重点的、効率的な配分のため、令和5年度の予算編成にあたっては、次の5つの取組を重点施策として設定します。一つに、コンパクトシティ政策の深化とスマートシティの推進、二つに、新型コロナウイルス感染症対策と安全安心なまちづくりの推進、三つに、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組と産業基盤の強化、四つに、地域を担うひとづくりと出産、子育て環境の充実、五つに、介護予防と歩くライフスタイルへの転換による健康寿命の延伸、この5つの取組に対して、限られた財源の重点的、効率的な配分を行ってまいります。

最後に、令和5年度予算要求基準について、申し上げます。

政策的経費については、一般財源ベースで、令和4年度当初予算額から、

総合計画に位置付けられる事業については、マイナス 10%、総合計画以外の事業は、マイナス 25%のシーリングを設定しております。

シーリングの枠外経費については、例年同様、扶助費や継続費、雪対策事業費などについて、所要額としております。

5 ページをご覧ください。

次が、令和 5 年度予算編成の大きな特徴になりますが、特別枠として、現在策定を進めている「(仮称) 富山市スマートシティ推進ビジョン」の実現に資する新規・拡充事業については、所要額を要求可能とします。

もう 1 点、各種課題や時代の潮流に対応していくとともに、各部局から新規事業の積極的な提案を促すため、「部局主導裁量枠」を設定して、部局長のマネジメントの下、現場の若手職員の多様で柔軟な発想に、所属長のこれまで培ってきた知識・経験を組み合わせるなど、組織の力を結集した要求を期待し、新規事業について、5 百万円の範囲での要求を可能としております。

最後に、経常的経費につきましては、まず、義務的経費については所要額、事務・施設的管理経費は、事業費ベースで、令和 4 年度当初予算額と同額の範囲内としております。

以上が、令和 5 年度の予算編成方針の概要です。

厳しい財政状況にあっても、本市が未来に向かって発展し、市民一人ひとりが誇りと希望を持てる、あるいは夢を持てる予算となるよう、全職員が一丸となって、自由かつ柔軟な発想で、あらゆる施策に創意と工夫を凝らして、予算編成に取り組んでまいりたいと考えております。

予算編成状況につきましては、今後も機会をとらえて、報告してまいります。予算編成方針に関しては以上です。

■立山あおぐ特等席の追加募集について

市長

このたび、富山地域のみに設定されている、美しい立山連峰を眺めるこ

とができる「立山あおぐ特等席」について、市域全体を対象として追加募集を行うこととしました。

この「立山あおぐ特等席」は、平成 10 年度に旧富山市が観光振興を目的として、富山市役所展望塔や平和通り、呉羽山公園など、美しい立山連峰を眺めることができる 11 カ所の眺望点を公募により選定したもので、現地にはその地点を示す標柱やプレートが設置されており、市町村合併後も非常に多くの市民に、その眺めを楽しんでいただいております。

立山連峰の眺望は、市内の至る所から眺めることができる本市を代表する景観の一つであることから、市域全体を対象とした「立山あおぐ特等席」を広く一般の方々から募集を行い、選定することで、これまで以上に多くの市民に愛される眺望景観になると思っています。加えて、市民のシビックプライドの醸成につながるものと考えております。

来年 1 月 20 日までを応募期間とし、市内から撮影された立山連峰の写真と、撮影地点名、応募者の住所、氏名、連絡先を記載して、Eメール、郵便等で景観政策課まで応募してください。なお、私有地など、誰もが容易に立ち入ることができない場所からの眺めは対象外となります。

応募にあたっては、住所要件や応募数に上限はございませんが、応募される写真は応募者が著作権を有するものに限りさせていただきます。そのほか、詳しい応募条件は、景観政策課のホームページをご覧ください。

皆様からご応募いただいた写真は、市のプロモーションに活用させていただくことがございますので、ふるってご応募いただきたく思います。

■ 報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

新型コロナウイルスの感染状況については、10 月下旬から全国の新規感染者数が 2 カ月ぶりに増加に転じております。

県内においても同様に、10 月下旬から、前の週の同じ曜日の感染者数を

上回る日が多くなるなど、増加傾向となっており、今後の感染拡大を懸念しているところです。

今後、インフルエンザも流行しやすい時期に入ってまいります。新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行を抑え込むためにも、皆様には「こまめな手洗い」「正しいマスクの着用」「人と人との距離の確保」などの感染予防対策を引き続き実践していただくとともに、「咳エチケット」にもご配慮いただきたいと思います。

なお、本日から、市内小中学生を対象としたインフルエンザ予防接種への助成も始まりました。新型コロナウイルスワクチンとインフルエンザワクチンの同時接種が、今年から可能となっておりますので、積極的な接種をお願いいたします。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種についてご報告いたします。

本市における、接種状況につきましては、お手元の資料のとおりであります。現在接種を進めているオミクロン株対応ワクチンを接種された方は10月31日現在で24,995人となっております。

オミクロン株対応ワクチンにつきましては、10月21日から、接種可能となる間隔が、前回接種から5カ月だったところが3カ月に短縮されたところであります。

短縮に伴い、本市では、6月から9月の間に2回目、3回目、4回目の接種を受けられた方に対し、10月21日から順次接種券を発送しております。このことにより、2回接種を完了した12歳以上の方のほとんどが、年内にオミクロン株対応ワクチンを接種することが可能となります。市民の皆様におかれましては、接種券が届きましたら、今後の感染拡大に備えるためにも、早めの接種をお願いいたします。

次に、6カ月から4歳の乳幼児への接種についてですが、国では10月24日から接種が可能とされたところであります。

本市では、接種対象となる6カ月から4歳の方、約13,000人に対し、11月9日に接種券を発送し、11日から予約、接種を開始いたします。

接種体制につきましては、接種の際の安全性を考慮して小児科医院での個別接種のみを実施することとし、現在のところ市内12の医療機関で接種を実施していただく予定となっております。

ワクチンにつきましては、ファイザー社製の乳幼児用ワクチンを使用します。乳幼児用ワクチンは、大人や小児に使用するものとは異なり、初回接種として3回の接種をすることとなります。1回目から2回目の間隔は3週間、2回目から3回目の間隔は8週間空けて接種します。この3回で1セットとなります。

乳幼児へのワクチン接種は、オミクロン株流行期において7割以上の発症予防効果があるとされており、安全性についても、臨床試験の結果に基づき大きな懸念はないとされています。

保護者の皆様におかれましては、ワクチンの効果と副反応のリスクの双方についてご理解いただいたうえで、接種をご検討いただければと思います。

私からは、以上です。

■ 質疑応答

記者

新年度予算編成について伺います。部局主導裁量枠の設定について、県のサンドボックス枠と似ているように思いますが、この創設に至る経緯と市長の思いをお聞かせください。

市長

ちょうど新型コロナウイルスの影響が3年目、丸3年になろうかと思えます。予算編成にあたっては、新型コロナウイルス対策、感染症の予防対策ということと、それに関して疲弊した商店や事業者など、地域経済にいかに対処をしていくかということ、そして特に生活が苦しいご家庭に対する支援、高齢者に対する支援なども含めて、新型コロナウイルスの影響に

より、(新型コロナウイルスに関する経費が)大きく予算の枠(を占めてきました)。国からの予算もそうですが、(新型コロナウイルスに関する経費が)非常に大きなウェイトを占めてきたという中で、それと同時に、未来を見据えた、例えばコンパクトシティ政策の深化に関わる部分、あるいはこれから市域全体に行き渡らせなければならないスマートシティの部分、このような今までのいわゆる政策的経費、あるいは市の総合計画に則ってやっていくべきこと、そのようなものを職員の力やアイデア、積極性を引き出しながら、その部局に裁量権を渡すことによって、広く職員の、特に若い世代のアイデアなどを引き出していきたいという思いであります。

決して予算が硬直化していたというわけではありませんが、ある程度限られた部分が多かったので、もう少し近未来を見据えて、新しいアイデアを出していただいて採用していきたいという思いで(部局主導裁量)枠を設けました。

記者

県のサンドボックス枠では、事業化しなくても試験的に行う(ための)予算としても活用されていると思いますが、市長もそのチャレンジというような思いがあるのでしょうか。

そうですね、チャレンジしていただければと思います。

ただし、一般的な(通常の)予算で要求するようなものではなく、部局主導裁量枠だからこそできるような、モデル的な事業になるかもしれませんが、ぜひこれをやってみたいとか、そのようなものがあれば、提案していただきたいという思いで設定しています。

記者

特別枠の中にスマートシティ推進ビジョン特別枠を設定するとあります。今年度は子育て支援も特別枠に含んでいましたが、今回、スマートシティ推進に絞った理由は何かありますか。

市長

スマートシティ推進ビジョンを今年度中に発表します。各地でヒアリングしたり、各地へ出向いてワークショップをしたり、いろいろな市民の皆

さんの声も聞いていますので、スマートシティ推進ビジョン特別枠の中で、スマートシティ、DX、ICTなど、デジタル技術を使って市域の問題を解決していくというような事業を提案していただければと思っています。

それは例えば、今やっている（子育て支援）AIチャットボットなども代表的だと思いますが、（子育て支援AIチャットボットは）デジタルを使った子育て支援ですね。そのような工夫もあると思いますので、さまざまな政策、施策にデジタルを入れて解決するという視点があれば、それぞれのエリアに合った事業が生まれてくると思っています。

記者

富山グラウジーズに関してお聞きします。新B1リーグ（の参入）に市総合体育館の改修が必要だということで、（支援に関する）要望書が出されました。（要望書提出から）日が経っていませんが、改修に向けて、改めて市長の考えをお聞かせください。

市長

富山グラウジーズさんが、正式に新B1リーグに参入するということを表明されました。ご質問のとおり、富山市総合体育館をホームアリーナにしたいと要望されました。それと同時に、（新）B1リーグ基準、例えば座席の増設や貴賓室の設置なども含めて、そういう部分、要はB1リーグ参入の（ための）施設的な条件面（の解決）に関しては、富山グラウジーズさんが積極的に経済界とも協力して資金集めを行うということも明言されておりますので、我々としてはその決意を重く受け止め、これから富山市としてどう取り組んでいけばいいか前向きに検討したいと思っています。

記者

来年度予算編成について、予算の重点的、効率的な配分で五つ挙げられていますが、この五つ重点施策と、特別枠としてのスマートシティ推進ビジョン特別枠との住み分けはどのようにするのでしょうか。先ほどのお話ではスマートシティ（の推進）の中には五つ重点施策に繋がるものもあるように思いますが。

市長

一般的な予算の重点的な効率的な配分の部分では、この5項目を挙げて、この中には、コンパクトシティ政策の深化とスマートシティの推進という従来のものも入っていますし、ゼロカーボンやコロナ対策、健康寿命の延伸、子育て支援、人づくりなども含めて、特に富山市総合計画の内容も含めて、我々が重点的に事業を進めたいという大きなものとして五つ挙げています。私の公約も含めて、その実現に向けてスマートシティ推進ビジョンを策定しているわけですから、そういう部分は特別枠で補完していきたいという考え方です。

ですからどちらの方で要求するかということに関しては、いろいろな考え方があると思います。

記者

前回の（市長就任後）初めての当初予算編成のときは、幸せ日本一とやま実現枠という特別枠を設けられていましたが、今回それをスマートシティに特化した枠にされることについて、市長の考え方をお聞かせください。

市長

前回はどちらかという自分のキャッチフレーズ的なところで、スマートシティに限らず、その枠では、いろいろな福祉的なことや、今おっしゃったこの5項目なども含めて入っていたわけですが、今回はより絞った、スマートシティなどに絞ったということだと思います。特に令和5年度はスマートシティ推進ビジョンを進めていく年になっていきますので、そういう思いもあります。

記者

スマートシティを進めたいという思いが強く形に表れたということでしょうか。

市長

そうです。

記者

この推進ビジョンは、現在、パブリックコメントが終わり、今年度中に策定ということですが、この予算を要求してもらうにあたり、ビジョンそのものはいつ頃の完成を目指しているのでしょうか。

市長

年内には完成する予定ですが、まだ担当課から具体的な話は聞いていません。ほぼ年内には完成するという事だけは聞いています。

記者

昨日、吉田豊史衆議院議員が日本維新の会からの除名（処分）を受けるということでしたが、富山市を地盤にしている議員が、除名（処分を受けたこと）や、今まで日本維新の会だったものが無所属で活動していくことでの市への影響なども含めて、どのように受けとめられていますか。

市長

市に対する影響はないと思いますが、衆議院議員の現職でありますし、議員の出処進退とまでは言いませんが、身の振り方はご本人が考えられることですので、私が感想を言ったり、とやかく言うことではないと思います。

今までどおり富山市と吉田議員との付き合い方は変わらないと思いますし、富山市のために、今までどおり頑張っていただけだと思います。

記者

市税について伺います。コロナ禍前の市税は、市町村合併後、最高水準にあったと思いますが、来年度はコロナ禍前の水準に戻ると見ているのでしょうか。どのくらい増収を（見込んでいるのでしょうか）。

市長

細かいことについては、後から（担当部局に）聞いていただければと思いますが、全体としては、一旦落ち込みを見せたものの、昨年度も予算を

上回る税収がありましたし、今年度もおそらく当初予算を上回ると（見込んでいます）。というのも、先ほど言ったように増改築を含めて、（住宅の）新規着工なども堅調ですし、企業の収益も堅調に推移しています。個人所得もそうなのですが、個人市民税、法人市民税等も堅調に推移しているということです。額については、後から（担当部局に）確認してください。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課